

2021年1月4日

2021年 社長年頭の挨拶（要約）

本年の目標

1. 21中計（中期経営計画）へと繋ぐ18中計の総仕上げ

18中計（対象年度：2019年度～2021年度）の最終年度となる2021年度は、計画した成長戦略を確実に実行へと移し、確りと次期中計に繋げる。一方でポストコロナを始め、常に変化する事業環境に合わせて柔軟に計画を立て直し、企業価値の最大化に向けた施策も着実に進める。

資源事業では、総力を挙げてケブラダ・ブランカ2プロジェクトとコテ金開発プロジェクトを計画通り推進する。

製錬事業では、将来的なニッケル戦略を見据え、ポマラプロジェクト実施に向けた意思決定を行い、実現に向けて邁進する。また、原料確保・操業安定化などの対策を継続し、3事業連携の中核部門として「ものづくり力」のさらなる強化を図る。

材料事業のうち電池材料では、市場・プレイヤーを良く見定め、将来の需要拡大に向けた中長期的視野に立った戦略を策定する。機能性材料ではデジタル社会の進展に伴って訪れる成長の機会を見据え、既存事業の競争力強化、新製品の上市・量産化に向けた動きを加速させる。

技術本部は、10年先を見据えた新規事業創出に向けて研究開発を継続する。また、電池リサイクルのパイロットプラントでの実証試験を終え、新プラントに向けた検討を金属事業本部などと連携して進める。

本社部門は、社会・事業環境の変化に対応するため、各々が連携して施策の実施や機動的な牽制機能を発揮する。また、オフィス改革に取り組み生産性の向上を図る。

2. 「2030年のありたい姿」の実現に向けた活動の推進

当社グループは、2020年3月に公表した「2030年のありたい姿」で、幅広い社会課題の解決を目指し10年後に当社は「こうありたい」という強い決意を表明した。企業は事業活動を時代の要請に合致させていかない限り、社会から淘汰されてしまう。当社グループを取り巻く社会情勢は変化し続けており、それを常に見極めて行動する必要がある。変化に適応しながら数値目標を時間軸とともに掲げ、「ありたい姿」の実現に向けて取り組む。

特に気候変動に対する急速な情勢の変化を見越し、対応の手始めとして温室効果ガス排出削減

投資の推進と、社内での意識向上を図るための制度を展開していく。その他の方策も21中計に織り込む形で計画を進める。

3. 経営基盤の強化

事業継続に必要な経営基盤の構成要素は、安全確保と環境保全、コンプライアンス、そして「人」である。

社員とそのご家族の幸福と将来を守るためにも、安全の確保は必要不可欠なものである。本年は重篤災害を絶対に防ぐべく、作業観察などの具体的な手法を用いて作業員と対話し、手順の整備と設備の順次安全化を実行する。また、手順・ルール of 遵守意識向上と定着に向けた取り組みを強化する。

環境保全については、異常気象時などへの対応も含め、引き続きリスク低減に向けた対策を推進する。また「2030年のありたい姿」の実現に向けた活動のなかで環境負荷の低減にも取り組む。

コンプライアンスは、法令の改正、社会や環境の変化によって求められる対応が自ずと変化する。これまで大丈夫であったからと安心せず、一つひとつの行動や対応について不断の検証をお願いするとともに、一人ひとりが当社グループのコンプライアンス実現の主役であるという自覚を持ち、節度ある行動をお願いしたい。

新型コロナウイルスの流行は社会を一変させ、それに適応した新しい生活様式・働き方へのシフトが進んでいる。当社グループは今後も絶えず変動する事業環境に対応すべく、人材の多様性と自由闊達な組織風土の再構築を実現するシステム・人事諸制度の整備を進める。

さらに、新たな取り組みとして「式年改革プロジェクト」を立ち上げる。これは当社の基幹となる技術、制度、業務システムを一定期間ごとに見直し変革を促すもので、社会・事業環境の変化へのタイムリーな適応、当社技術・文化の伝承という形での人材育成を目的とする。

以上

本件に関するお問合せ先

住友金属鉱山株式会社 広報IR部 東京都港区新橋 5-11-3 新橋住友ビル

TEL : 03-3436-7705 Eメール : smm_koho@smm-g.com